



健康な体
誠実な心
豊かな知性



尾張旭市立東中学校
学校だより
平成 30 年度 第 3 号

「さわやかな笑顔が輝く東中生」 生徒数 男子 357 名 女子 346 名 計 703 名

「あいさつ」で変わる・変われる

校長 水野 茂

「健診に来校された校医さんを案内していくと、すれちがう子たちがしっかりあいさつする姿を見て、うれしくなりました…」。保健室の水野先生の言葉です。また、何人かの先生が、「自然なあいさつができる子が増えてきた感じがします」とも。たしかに、休み時間に廊下などですれ違う子たちの中に、「こんにちは」とさわやかなあいさつをくれる子たちがいます。そして朝、門で出迎えていると、遠くから「おはようございまーす」と互いが元気になるあいさつができる子たちも。4月からもうすぐ2か月が経とうとしています、校内の「あいさつ」がちょっと変わりつつあります。



では、なぜあいさつができる子が増えてきたのか。先生たちが、「あいさつは大事」「あいさつしよう」と伝えてきていることもありますが、あいさつしてみたら「なんかいいなあ〜」と感じたからなのではと思います。あいさつは、「なんかいいなあ」と感じる機会をつくってくれます。自然と笑顔を増やしてくれます。人間関係を改善してくれます。常識ある人として見られるようになります。人と会話する機会を増やしてくれます。これほど効果が期待できる「あいさつ」なのに、必要なものは何もありません。今すぐにも簡単に始められます。「あいさつ」が変わってくると、学校が変わります。そして、「あいさつ」で自分自身も変われます。そんな変化を、みんなに感じてほしいと願います。

4月、始業式で、「今日から始められること。朝や帰りに出会う地域の人たちにあいさつを」とみんなに呼びかけました。今ならできるように思います。

『ありがとう』の力

朝から校地内の草刈りをしていると、1限の休み時間に1年生の男子生徒が6〜7名、近づいてきました。エンジンを止めて「どうした？うるさかったか？」と尋ねると、「いえ、ちがいます」「草刈り、ありがとうございます」と返ってきました。わざわざ靴にはきかえ、離れたところまでやってきての言葉に少々驚いたのと同時に、何とも言えないうれしい気持ちになり「ありがとうね。元気がでるわ」と返しました。「担任の〇〇先生に言われたの？」ときくと、首をふって「ちがいます」。1年生なのに大したものです。また、数分会話を交わした中で、その生徒たちは、それぞれ別の小学校の出身であることがわかりました。この1か月で、クラス内に新しい友達がしっかりできています。この生徒たちに元気ももらい、調子よく昼まで草を刈りました。

(5月11日の東中学校HPより)

応募してみよう!

学校には、ボランティアや作品募集など、さまざまな募集案内が届きます。4月以来、市の「健康フェスタ」や「児童館子どもまつり」などのボランティアに応募し、活躍する子たちが増えてきました。現在は、「ふれあい夏まつり 夢・水まき隊」「あいち科学の甲子園 Jr」の募集があります。これまで、「自分に関係ないから」としていた子がほとんどかと思いますが、今年一年のうちにぜひ何かに応募し、挑戦してみてください。きっとこれまでとは違った景色が見られると思います。一人でも大丈夫です。一人の方がいいかもしれません。強くなれますよ。